

涸沼の生きものと人びと

涸沼と周辺に生息する生きもの

人力でひとかき、ひとかき。
動力を使わないのは
涸沼のめぐみを守るため。



1日100kgまで
平日4時間のみ

涸沼の伝統漁法

豊かな水産資源に恵まれ、
古くから漁業が営まれてきた涸沼では、
今も昔ながらの漁法で漁が行われている。

動力を使わない手掻きの「シジミ漁」

長い棒の先に金属のカゴがついた「カッター」と呼ばれる
漁具を使い、湖の底を人力で掻く涸沼のシジミ漁。
船の縁を支点にゆさゆさと船を揺らし、
テコの原理を使ってカゴの中に
シジミを掻き入れる。

長いもので9m、重いものでなんと10kgの漁具

シジミ漁師は季節や漁をするポイントに
合わせてカッターの柄の長さや爪の形を
変えている。長年の経験がものを言う。

カゴの網目は12mm
小さいシジミは落ちる

冬はシジミが下に
潜るので爪が
長いものを、
底が砂利なら
細かい爪の
ものを使用。



ヤマトシジミ 汽水
Corbicula japonica

ウナギの寝床? 「たかっぱ漁」

筒状の竹を束ねて水に沈める。ウナギが狭い
ところなどに入る習性を利用した漁法。
「竹にすっぽ」と入る様から、それが訛って
「たかっぱ」と呼ばれるとか。



超シンプル!!な「笹浸し漁」

笹を水に沈めておくと、小さなエビや小魚など
が身を隠すので、それを引き上げて網ですくう。
餌も針も使わないシンプルで環境にやさしい
漁法。



涸沼を活用し、学ぶ



自分で漕ぐって
大変だけど面白い!

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会

茨城町の広浦地区に住む漁師・農家の
おじいちゃんやおばあちゃんが「よく来たね～」と
孫を迎えるように、教育旅行に来た学生たちを受け入れている。
シジミ漁のほか、昔ながらの漁の見学・体験、手づくりの
イカダでの競争など、涸沼ならではの自然体験プログラム。
おばあちゃんたちが「しじみ汁」をふるまいながら、
「おいしい!」と何杯もお代わりをする子どもたちに目を細める。
涸沼を通して日本の文化を体感できるプログラムもあり、
外国からの学生も受け入れている。

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会事務局 ☎ 090-9646-9775

野鳥
Birds

220種

昆虫
Insects

トンボ 30種
チョウ 49種

魚類
Fishes

109種

出典: 2017年2月 汽水湖「涸沼」

植物
Plants

300種以上

スズガモ 冬鳥
Aythya marila

毎年冬になると、東アジア地域
個体群の1%以上(2,500羽)が飛来。
主食は貝類で、潜水してシジミを食べる。



ボラ 周縁性淡水魚
Mugil cephalus cephalus

涸沼では水面を跳ねる姿で
おなじみ。幼魚が群れて水面近くを
泳ぐ様子も見られる。

ニホンウナギ 通し回遊魚
Anguilla japonica

海と川を行き来する回遊魚。
稚魚が河川をさかのぼり、
汽水から淡水の流域で成魚に。

★ ミナミメダカ 純淡水魚
Oryzias latipes

日本固有種で水生植物が繁茂する
場所や、涸沼周辺の農業用水路、
ため池で見られる。

カヤネズミ
Micromys minutus

日本に生息するネズミの仲間では
最小で大人の親指ほどの大きさ!
重さは500円玉1枚分ほど。
湖岸のオギなどの草原に生息。

マハゼ 周縁性淡水魚
Acanthogobius flavimanus

汽水域の涸沼の代表的な魚種。
ビギナーにも釣りやすい。

シラウオ 通し回遊魚
Salangichthys microdon

透明な身体のある魚。
涸沼では4月頃に波打ち際で
見られる。

ヒメガマ
Typha domingensis

★ オオクゲ 汽水
Carex rugulosa

抽水植物

葉と茎を水面に出す植物。
生きものの棲み家や産卵の場所となる。
水質浄化などの役割も果たす。

★ オオワシ 冬鳥
Haliaeetus pelagicus

国の天然記念物。
涸沼にはくちばしに傷のある
1羽のオオワシが
20年以上飛来していた。

スズキ 周縁性淡水魚
Lateolabrax japonicus

成長につれて呼び名が変わる出世魚。
「セイゴ」→「フッコ」→「スズキ」と
呼ばれる。シーバスとはスズキのこと。
涸沼はシーバスの聖地と言われている。

ヨシ
Phragmites australis

アイアシ 汽水
Phacelurus latifolius

★ オオセッカ 留鳥
Locustella pryeri

ヨシ原で繁殖。
ラムサール条約の登録要件
となった希少種。



約2m40cm